

Title	ぼれる集合論ニ於ケル分離ノ原理ニ就テ
Author(s)	酒井, 政雄
Citation	全国紙上数学談話会. 65 p.24-p.31
Issue Date	1935-11-08
oaire:version	VoR
URL	<a href="https://doi.org/10.18910/74180">https://doi.org/10.18910/74180</a>
rights	
Note	

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

## 258. ぼれる集合論 = 於ケル分離ノ原理 = 就テ

酒井政雄(北大)

分離ノ原理ハ解析集合論 = 於ケル最も基本的ナ定理ノ一ツデアル。コノ原理ハ最近 Novikott, Liapounott 及 Lusiu 等 = ヨリ "separabilité multiple" (定義 / 参照) ノ場合 = 拡張サレタ。然ラバ, Borel 集合論 = 於ケル分離ノ原理ガ同様ノ拡張ヲ許スカドウカ? —— = 就イテ Sierpiński: Sur la separabilité multiple des ensembles mesurables B. Fund, Math. t. 23 pp. 292 — 303 = 於テソノ大部分ハ肯定的ノ結

果が成ラレヌ。然シ可附番無限ノ場合ノ第二分離ノ原理  
 (ばれル集合論=於ケル) (定義2参照) ハ同氏ニヨツテモ  
 取扱ハレズ、尚ソ、上、同論文ノ終リ及ビ *Ruziewicz*:  
*Sur la séparabilité multiple des ensembles*,  
*Fund. Math.* t. 24, pp. 199—205ノ初メニ、カ  
 カル場合ヘノ拡張ハ不可能デアルト云ツテイル。之レハ何カ  
 ノ誤解デアラウ。(多ク *Liapounoff* Disノ條件ノ下  
 ニテ不可能デアルト云フ意味デアラウ)。何トナレバ、以下  
 証明スルヤウニ、コノ場合ヤハリ定理ハソノママ成立スルカ  
 ラデアイル。

### 定義1.

点集合  $K$  ノ部分集合ノ集合ヲ重トスル。

1°. *Lusin* ノ第一分離ノ原理:  $E_1, E_2 \in \mathfrak{A}$ ,  $E_1 E_2 = 0$   
 ナルトキ,  $H_1, H_2, K - H_1, K - H_2 \in \mathfrak{A}$ ,  $H_1 \supset E_1, H_2 \supset E_2$ ,  
 $H_1 H_2 = 0$  ナル  $H_1, H_2$  が存在スル。

2°. *Novikoff* ノ分離:  $E_1, E_2, \dots, E_m \in \mathfrak{A}$ ,  
 $E_1 \dots E_m = 0$  ナルトキ  $H_1, \dots, H_m$  が存在シテ,  $H_i$ ,  
 $K - H_i \in \mathfrak{A}$ ,  $H_i \supset E_i$  ( $i=1, 2, \dots, m$ ),  $H_1 H_2 \dots H_m = 0$   
 トナル。

3°. *Liapounoff* ノ分離:  $E_1, E_2, E_3, \dots \in \mathfrak{A}$   
 (可附番無限個).,  $E_1 E_2 E_3 \dots = 0$  ニ對シテ  $H_1, H_2$ ,  
 $H_3, \dots$  が存在シテ  $H_i, K - H_i \in \mathfrak{A}$ ,  $H_i \supset E_i$ , ( $i=$   
 $1, 2, 3, \dots$ ) 且ツ  $H_1 H_2 H_3 \dots = 0$  トナル。

4°. *Liapounott* / bis 分離:  $E_1, E_2, E_3, \dots \in \mathfrak{E}$ ,  
 $\lim E_m = 0$  = 對シテ  $H_1, H_2, H_3, \dots$  が存在シテ,  $H_i$ ,  
 $K - H_i \in \mathfrak{E}$ ,  $H_i \supset E_i$ , ( $i = 1, 2, 3, \dots$ ) 且シ  $\lim H_m = 0$   
 トナル。

## 定義 2.

1°. *Lusin* / 第二分離原理:  $E_1, E_2, \dots \in \mathfrak{E}$  = 對シ  
 テ,  $H_1, H_2$  が存在シテ,  $K - H_1, K - H_2 \in \mathfrak{E}$ ,  $H_1 \supset E_1 - E_2$ ,  
 $H_2 \supset E_2 - E_1$ ,  $H_1 H_2 = 0$  トナル。

2°. *Lusin* / 第二分離原理 / 拡張:  $E_1, E_2, \dots, E_m$   
 $\in \mathfrak{E}$  = 對シテ,  $H_1, H_2, \dots, H_m$  が存在シテ  $K - H_i \in \mathfrak{E}$ ,  
 $H_i \supset E_i - (E_1 E_2 \dots E_m)$ , ( $i = 1, 2, \dots, m$ ) 且  $H_1 H_2 \dots H_m$   
 $= 0$  トナル。

3°. 可附番無限ノトキノ第二分離原理: 可附番無限個  
 $E_1, E_2, E_3, \dots \in \mathfrak{E}$  = 對シテ  $H_1, H_2, H_3, \dots$  が存  
 在シテ,  $K - H_i \in \mathfrak{E}$ ,  $H_i \supset E_i - (E_1 E_2 E_3 \dots)$ , ( $i = 1, 2,$   
 $3, \dots$ ) 且ツ  $H_1 H_2 H_3 \dots = 0$  トナル。

定理. *Metric space* = 於テ  $\mathfrak{E}$   $\mathfrak{A}$  ( $1 \leq \mathfrak{A} < \aleph$ )  
 次ノ *multiplicative* / *Borel* 集合トスル。コノ  $\mathfrak{E}$  =  
 ツイテ可附番無限ノ場合ノ第二分離原理が成立スル。尚、同  
 時ニ  $E_1 E_2 \dots = 0$  ナラバ *Liapounott* / 分離原理が  
 成立スル。

## 証明.

$\mathfrak{E}$   $\mathfrak{A}$  次ノ *ambigu* / *Borel* 集合トスルト,  $\mathfrak{E}$  ハ

Körper  $\neq 0$  である、 $\Phi$  を Körper とし、 $\Phi \ni E_1, E_2, \dots$   
 1 とき、 $\Phi \ni H_1, H_2, \dots$  が存在して 乗 へ ら れ た 性 質 を も  
 ち、且つ  $E_1 E_2 E_3 \dots = 0$  とならば、此処に 乗 へ た  $H_1, H_2, \dots$   
 ..... の 同 時 に  $\in \Phi$  と ナ ル コ ト を 証 明 ス ル。

$H_i$  は ツ キ ——  $\Phi$  を  $E_1, E_2, \dots$  となルコト、 $\Phi$  が  
 Körper となルコト = ヨリ

$E_i = E_i' E_i^2 E_i^3 \dots, E_i^u \supset E_i^{u+1}, E_i^u \in \Phi, i, u = 1, 2, 3,$   
 ..... と シ テ ヨ リ。コノトキ

$$F_i^u = \prod_{\substack{j=1 \\ j \neq i}}^{n+1} E_j^u$$

ト オ ク。コノトキ、 $F_i^u$  は  $F_i^u \in \Phi, F_i^u \supset F_i^{n+1}$  と ナ ル。扱テ

$$(1) \quad H_i = E_i' (K - F_i') + E_i^2 (F_i' - F_i^2) + \dots \quad \text{ト ス ル。}$$

之レが 求 ム ル  $H_i, i = 1, 2, \dots$  , デ ア ル。

Klass = ツ キ。——  $\Phi$  の Körper となルコト (1) の  
 右辺の各項は  $\Phi$  に 属 ス。ヨツテ  $H_i \in \Phi$ 、即チ  $K - H_i$   
 $\in \Phi$ 。

$$E_1 E_2 E_3 \dots = 0 \quad (\wedge \in \Phi \cap \Phi) \quad \text{ノ ト キ}$$

$$K \supset E_i' \supset E_i' F_i' \supset E_i^2 F_i' \supset E_i^2 F_i^2 \supset \dots \supset (E_i^2 E_i^3 \dots) = 0. \quad \text{ナ ル コ ト。 ( 次ノ ※ 参 照 )}$$

$$K - H_i = (K - E_i') + F_i' (E_i' - E_i^2) + F_i^2 (E_i^2 - E_i^3) + \dots$$

..... コノ式ノ右辺ノ各項は  $\Phi$  に 属 スルカラ、 $K - H_i \in \Phi$   
 ヨツテ  $H_i \in \Phi$

$$H_i \supset E_i - (E_1 E_2 \dots) = \text{ツ イ テ} \quad E_i^n \supset E_i, E_i^n \supset E_i^{n+1}$$

及ビ  $F_i^n$  及  $F_i^{n+1}$  ヲ用ヒテ (1) ヲリ

$$H_i \supset E_i (K - F_i') + E_i (F_i' - F_i^2) + \dots$$

$$= E_i [K - (F_i' F_i^2 F_i^3 \dots)]$$

$$= E_i - E_i \times (F_i' F_i^2 F_i^3 \dots)$$

$$= E_i - (E_i' E_i^2 E_i^3 \dots) \quad *$$

$$(E_2' E_2^2 E_2^3 \dots) E_i \times F_i' F_i^2 \dots$$

$$(E_3^2 E_3^3 \dots) = E_1 E_2 E_3 \dots$$

トナルコト。

$$(E_i' E_i^2 \dots E_i^{i-1} E_i^i \dots)$$

$$= E_i - (E_i' E_i^2 E_i^3 \dots)$$

$$(E_2' E_2^2 E_2^3 \dots)$$

$$(E_3' E_3^2 E_3^3 \dots)$$

$$(E_i' E_i^2 E_i^3 \dots)$$

$$= E_i - (E_i E_2 E_3 \dots)$$

$$H_1 H_2 H_3 \dots = 0 \text{ ヲツイテ } \text{---} \text{モシ } H_1 H_2 \dots \neq 0$$

ナラバ共通部分 = 一点  $p$  ヲトル。  $H_1 \ni p$  ナルユエ, (1) 式デ

$i=1$  ニシテ見ルト。  $n \geq 1$  が存在シテ  $E_1^n (F_1^{n+1} - F_1^n) \ni p$ .

但シ  $F_i^0, E_i^0$  等ハ凡テ  $K = \text{トル}$ 。依ツテ

$$(2) \quad E_1^n \ni p, F_1^{n+1} \ni p, F_1^n \ni p$$

(2) ノ第一式ト  $E_1^{n+1} \supset E_1^n$  トヨリ,  $E_1^{n+1} \ni p$ .

(2), 第二式ト  $F_j^{n-1}$  / 定義 = ヲリ  $E_j^{n-1} \ni p, j=2, \dots$   
 $\dots, n$ , 依ッテ  $F_i^{n-1}$  / 定義 = ヲリ  $F_i^{n-1} \ni p, i=1, 2, 3, \dots$   
 又  $F_k^m$  / 單調性 = ヲリ

$$(3) F_i^0 \supset F_i^1 \supset F_i^2 \supset \dots \supset F_i^{n-1} \ni p, i=1, 2, 3, \dots$$

(2), 第三式 = ヲリ  $k$  ( $K \leq n+1$ ) が存在シテ  $E_k^n \ni p$ .

$E_i^m$  / 單調性 = ヲリ

$$(4) E_k^n \supset E_k^{n+1} \supset E_k^{n+2} \supset \dots \ni p$$

極テ (1) = ヲリ

$$H_k = \sum_{m=1}^{n-1} E_k^m (E_k^{m+1} - F_k^m) + \sum_{m=n}^{\infty} E_k^m (F_k^{m+1} - F_k^m)$$

コノ式ノ右辺ノ第一項ハ (3) = ヲッテ  $p$ ヲ含マズ, 第二項ハ  
 (4) = ヲッテ  $p$ ヲ含マズ. 依ッテ  $H_k \ni p$ . 之ハ  $p$ ノ定義 = 反  
 スル。

依ッテ  $H_1, H_2, H_3, \dots = 0$  トナル。

(証明了)

尚上述ノ *Ruziewicz* ノ論文デハ,

至ル *Ring* デ *Lusin* ノ第二公理原理が成立スル  
 キハ、*Lusin* ノ第二公理原理ノ拡張 (定義 2, 2°) が  
 成立スル。

トイフコトが面白い方法デ証明サレテキルが、次ノ如ク  
*Novikott* ノ証明法 = ヲッテモ証明サレル。念ノタメ  
 記シテオキマス。コノ方が遙カニ簡單デアルト思ヒマス。

証明.

$m=2$ ノトキハ、*Lusin*ノ第二分離原理デ、コレハ假定ニヨツテ成立スル。 $(m-1)$ ケノトキ成立スルトキ $m$ 個ノトキモ成立スルコトヲ示セバヨイ。

$E_1, E_2$ ニツキ、 $K_1, K_2$ が存在シテ

$$K_1 \supset E_1 - (E_1 E_2), \quad K_2 \supset E_2 - (E_1 E_2)$$

$$K_1 K_2 = 0, \quad K_1, K_2 \in \Phi_C$$

$(m-1)$ 個ノ $(E_1 E_2), E_3, \dots, E_m$ ニツキ $L_0, L_3, \dots, L_m$ が存在シテ

$$L_0 \supset (E_1 E_2) - (E_1 E_2 \dots E_m)$$

$$L_3 \supset E_3 - (E_1 E_2 \dots E_m), \dots, L_m \supset E_m - (E_1 E_2 \dots E_m)$$

$$L_0 L_3 \dots L_m = 0, \quad L_0, L_3, \dots, L_m \in \Phi_C.$$

此処デ、 $H_1 = K_1 + L_0, H_2 = K_2 + L_0, H_3 = L_3, \dots, H_m = L_m$ トスル。

$\Phi$ ガRingナル工エ、 $\Phi_C$ モ亦Ringデアル。依ツテ $H_1, H_2$ , 及ビ $H_3, H_4, \dots, H_m$ ハ凡テ $\Phi_C$ 。

$$\begin{aligned} H_1 &= L_0 + K_1 \supset (E_1 - (E_1 E_2)) + ((E_1 E_2) - (E_1 \dots E_m)) \\ &= E_1 - (E_1 \dots E_m) \end{aligned}$$

$H_2$ モ同様。  $H_3, \dots, H_m$ ハ $L_3, \dots, L_m$ ト同ジモノナル工エ、又ハリ同ジ様ナ式が成立スル。

$$\begin{aligned} H_1 H_2 \dots H_m &= (L_0 + K_1)(L_0 + K_2) L_3 \dots L_m \\ &= L_0 L_3 \dots L_m + K_1 K_2 L_3 \dots L_m = 0 \end{aligned}$$

(以上)

日本學士院記事(1934)第9号ノ功力先生ノ論文ニヨリ



マスト、任意ノ *metric space* = 於ケル解析集合ハ *Lusin*  
ノ第二分離原理ヲ充スコトが証明サレテイマスカテ、上ノ結  
果ヨリ次ノコトが言ヘマス。

任意ノ *metric space* = 於ケル解析集合  $E_1, E_2, \dots$   
 $\dots E_m =$  對シテ、補解析集合  $H_1, H_2, \dots, H_m$  が存在  
シテ

$$H_i \supset E_i - (E_1 E_2 \dots E_m), \quad i = 1, 2, \dots, m$$

$$H_1 H_2 \dots H_m = 0$$

トナル。